

## 第12 伝えるに値するメッセージ

### 【暗唱聖句】

「わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て、大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい」黙示録 14 : 6, 7

### 【日曜日・ペトロの「いま持っている真理」のメッセージ】

神様は重大な出来事を行われる際に、不意を突かれることはありません。大洪水の前にノアに預言させ、ヨセフを立てて7年間の豊作時に飢饉に備えさせ、ユダの預言者によってバビロンの侵略を警告させました。現代の私たちに対してはどうでしょうか。ペトロは「いま持っている真理」（第一ペトロ 1:12）という言葉を使って、「永遠の御国に入ることができる」（第一ペトロ 1:11）希望を述べ伝えました。罪の結果、死がもたらされたのに、永遠の命が約束されたわけです。それはイエス様の再臨のときに実現します。だから、それに備えるようにと聖書は繰り返し警告しているわけです。ノアの時代にはノアの時代の人々に対するメッセージがあったように、再臨への備えは現代人に対するメッセージなのです。旧約の預言者たちは、彼ら自身の解釈を交えずストレートに神様の言葉を語ったように、ペトロは、「聖書の預言は一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです」（第一ペトロ 1:20）と、再臨のメッセージを勝手に解釈してはならないと教えています。また、「暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意してください」（第一ペトロ 1:19）と語っています。

### 【月曜日・終末に焦点を合わせる黙示録】

黙示録の第一の焦点は、イエス・キリストの再臨です。1:3では、「この預言の言葉を朗読する人と、これを聞いて、中に記されたことを守る人たちとは幸いである。時が迫っているからである」と、時が切迫しているから、黙示録を読み、その中に書かれていることを守る人は幸いであることを告げ、1:7では、唐突とも思えるような形で、「見よ、その方が雲に乗って来られる。すべての人の目が彼を仰ぎ見る」と再臨について語られ、黙示録は始まります。そして、7つの教会それぞれあてた重要なメッセージが語られた後、7つの巻物・ラッパ・鉢の描写を通して再臨の前兆・警告・裁きについて、天国の描写や善と悪の大争闘の歴史などの場面を交えながら語られていきます。

また 14:14では、「わたしが見ていると、見よ、白い雲が現れて、人の子のような方がその雲の上に座っており、頭には金の冠をかぶり、手には鋭い鎌を持っておられた…天使は地に鎌を投げ入れて地上のぶどうを取り入れ、これを神の怒りの大きな搾り桶に投げ入れた」、19:11では、「わたしは天が開かれているのを見た。すると、見よ、白い馬が現れた…この方の口からは、鋭い剣が出ている。諸国の民をそれで打ち倒すのである」と、裁きを伴う形での再臨の光景が描かれています。そして、黙示録の最後 22章 20節では、「以上すべてを証しする方が、言われる。「然り、わたしはすぐに来る。」アーメン、主イエスよ、来てください」と、やはりイエス様の再臨の光景で閉じています。イエス様の再臨は、聖書のクライマックスであり、救済と裁きが同時に語られる、すべての人々が知らなければならない究極のメッセージです。これを最後の時代に生きている私たちは伝えなければなりません。

### 【火曜日・黙示録の終末メッセージ】

黙示録 14章は黙示録の中心です。大きく3つに分けることができ、1~5節までは、「小羊と14万4千人について」、6~13節までは「3天使の使命について」、14~20節までは「再臨に伴う収穫と裁き」です。

14節の白い雲の上におられる人の子のような方はイエス様を現わし、手に持った鎌で、救われる人たちが刈り取られていきます。ところが、17節にやはり手に鎌を持った天使が現れ、熟しすぎたぶどうを刈り取って行きます。そして、これを神の怒りの大きな搾り桶に投げ入れ踏まれると、血が搾り桶から流れ出て、馬のくつわ

に届くほどになり、千六百スタディオン（ $1600=4\times 4\times 10\times 10\cdots 4$  は四方を現わしそれが 2 回、さらに完全数の 10 を 2 回掛け、全世界を現わす）にわたって広がっていきます。これは裁きを現わしています。

14:6~13 にかけて三天使の使命が登場します。SDA はこの三天使の使命を語る教会として召されています。特に、6, 7 の第一天使の使命は重要で、創造主なる神を、正しく礼拝する（安息日を守る）というメッセージが委ねられています。自分たち自らそうすると共に、他の人にもこれを伝える使命があります。

#### 【水曜日・より完全に神のメッセージを理解する】

第一天使は、「神を畏れ、その栄光をたたえなさい」と言っています。神を畏れるとは、あらゆる点において、神様を第一としていくことです。このことに関しては、コヘレト 12 章 13 節でも、『神を畏れ、その戒めを守れ』これこそ、人間のすべて」とあります。また、神様の栄光をたたえるとは、単に賛美の声を上げれば良いのではなく、生活すべてにおいて神様の栄光となる生き方をすることです。コリント第一 6:19 では、「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい」と書かれてあります。私たちの体は神様に買い取られたのです。だから、自分の欲望のままに生きるのではなく、神様の栄光が現れるような生き方をしなければならないのです。そうしないと、内におられる聖霊は悲しまれます。神様がたたえられる生き方は、私たちの喜び、幸せと結びつきます。

黙示録 14:7 で、神様をあえて「天と地、海と水の源を創造した方」と表現しています。これには意味があるのです。それは創造の記念日である安息日を覚えるということです。今日、多くの日曜教会ではこの安息日の大切さが見失われています。またそれは他人事ではなく、安息日の重要性を学んだ私たち SDA の中にも、安息日の大切さが忘れかけていることがないでしょうか。

#### 【木曜日・神の最後の訴え】

「別の第二の天使が続いて来て、こう言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。怒りを招くみだらな行いのぶどう酒を、諸国の民に飲ませたこの都が。」ヨハネの黙示録 14 章 8 節

バビロンは必ず倒れます。だから、それに巻き込まれないようにバビロンから離れなければなりません（黙示録 18:4）。では、バビロンとは何を現わしているのでしょうか。バビロンは、かつて存在した古代都市であり、それは人間の業や力、人間の伝統、偽りの宗教などを象徴しています。語源はバベルから来ていると言われており、バベルは混乱を意味し、自分で自分の命を救おうとしたバベルの塔があった場所です。バベルの塔が神様の怒りに触れ倒されたように、バビロンも倒されるときが来るのです。

バビロンは、みだらな行いのぶどう酒を飲ませた都と表現されているように、人を酔わせて正しい判断を鈍らせ、欲望の赴くままに生きるように誘惑し、真の神様から人を引き離します。その背後にあるのは、「倒れた。大バビロンが倒れた。そして、そこは悪霊どもの住みか、あらゆる汚れた霊の巣窟、あらゆる汚れた鳥の巣窟、あらゆる汚れた忌まわしい獣の巣窟となった」（黙示録 18:2）とあるように、悪霊なのです。「道であり、真理であり、命である」（ヨハネ 14:6）キリストを正しく宣べ伝え、バビロンの誤りを明らかにし、そこから離れるように述べ伝えるのが、私たちの使命です。

「別の第三の天使も続いて来て、大声でこう言った。「だれでも、獣とその像を拝み、額や手にこの獣の刻印を受ける者があれば…」（黙示録 14:9）と、第三天使は、獣（サタン）とその像（シンボル・日曜礼拝）を拝むものは、額（考え）と手（行動）に獣の印を受けると言っています。創造主を拝むものとサタンを拝む者にはっきりと分かれますが、鍵となるのは安息日です。そのようにこれから展開していくことになります。